



発行所：みんなで政治を考える会
〒615-0062 京都市右京区西院坤町2
ケイハンシティビル601
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310

発行人：二ノ湯智
国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館632号室
TEL.03-3508-8632 FAX.03-5512-2632

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはぐくみ、平和を希望する言葉です。 題字：栢木寛照

えとす

年間購読料 1,200円(一部100円)
第3種郵便物認可 平成2年1月18日
口 座 01000-4-62360

平成18年 2月号
No.177

京都の智恵を日本に活かす。
二ノ湯智ホームページ <http://www.ninoyusatoshi.com>

自民党、山田京都府知事を推薦

小泉総裁、山田知事に推薦状を交付

3月23日告示、4月9日投票で実施される京都府知事選挙に出馬を表明している山田啓二京都府知事を自民党京都府連は自民党推薦候補として、党本部に上申することを1月26日の選挙対策委員会で決定した。

2月2日、自民党本部の総裁室で、小泉純一郎総裁は山田知事へ自民党の推薦証書を授与した。総裁室には、京都府連所属の国会議員の大半が立ち会い、自民党京都府連として、全面的に山田知事の再選を支援する意志を示した。前回の選挙で山田現知事と争った、京都4区選出の中川泰宏氏もその場に出席した。党本部側は、小泉総裁の他、武部勤幹事長、選挙の実質的な責任者である総務局長の遠藤武彦衆議院議員も山田知事を迎えた。

授与式は、滞りなく進み、その後しばらく山田知事は小泉総裁や伊吹府連会長と談笑していた。山田知事は、昨年4月に開館した和風迎賓館の魅力を強調しながら、2008年サミット(主要先進国首脳会議)の京都府への誘致を要望した。小泉総裁は、昨年11月のブッシュ米大統領の京都訪問を思い出しながら、「住民から交通渋滞に関する苦情が多かったから、ヘリコプターが必要じゃないかな」などと応答する場面もあった。

なお現状では、知事選は、自民党・公明党・民主党などが推薦する山田知事と、共産党などが推す京都母親連絡会事務局長の衣笠洋子氏の一騎打ちになりそうな模様である。



小泉総裁から推薦状を受けとる山田知事



授与式で小泉総裁を囲んで(右端が二ノ湯議員)

恒心

自民党の太田誠一党改革実行本部長が、議員バッジを廃止したいと発言した。新聞報道だけであるので、確かなことは分からないが、議員バッジはいかにも特権的

で政治の後進性を象徴しているもので、廃止した方が望ましいという考えらしい。さらに太田氏は、国会議員バッジを採用している国は、日本と韓国の二ヶ国だけでいかにも品位がないと主張している。日本人はバッジの好きな国民性で、会社員、地域社会においても地方議員から消防団をはじめ、各種団体の人もつけており、中には国会議員より立派なバッジさえある。バッジは、自分たちの仕事に誇りと使命感を植えつけることに大いに効果がある。国会議員も特権意識を持つということより、バッジをつけているから常に身を正し、悪いことをしてはいけない、人の模範とならなければと絶えず意識する。国会議員バッジは「私は国会議員でございます」と他人に見せびらかすのではなく、自分を証明する一つでもある。国会議員といえども、議員バッジがなければ国会議事堂に入ることはいかない。私もバッジをつけ忘れて国会の委員会室に入ろうとしたら、監視から制止されたことがある。従って、バッジは入場証、身分証明証なのである。もし、なくなれば、国会、議員会館の入場、電車に乗るとき、常に証明書を見せなければならぬ。議員バッジが、特権的といわれてビクビクするようでは困ったものである。行政改革の中で議員バッジなどは小さいものである。もっと大胆に切り込む改革が他にもっとたくさんある筈だ。

第二名神、着工判断を先送り



第二名神を審議する国幹会議

議員らも、第二名神高速道路建設促進議員連盟を結成し、地元関係者と一致団結して、度々2区間の早期着工を要望してきた。それに対して、国土交通省は建設の意向を明白に示してきた。

その中で迎えた2月7日、国の高速道路建設計画を決定する、国土開発幹線自動車道建設会議が開催された。会議では、国土交通省が、「第二名神の抜本の見直し区間は、片側2車線、制限速度を時速120kmから100kmにして勾配を少なくするなど規格・構造を変更し、事業費を約3500億円削減した。着工する時期は、平成20年度に第二名神の「亀山―大津」が、平成21年度には第二京阪の「枚方東―門真」がそれぞれ供用開始となるが、その時の周辺の交通需要・状況を見て判断したい」と説明した。第二名神不要派に配慮し妥協したためである。

結局、建設路線に指定はされたものの、着工時期の判断をするまでにさらに3年以上かかり、困難な用地買収もその後にはか始められなくなった。第二名神の開通を前提に街作りを進める沿線自治体など地元関係者にとっては、非常に残念な結果である。

第二名神の建設は、構想段階を含めれば既に30年以上かかっているが、地元事情を知らない民間人らの発言でまた先延ばしとなった。政府委員の選出についても、地方の事情に通じた人をもっと多く含め、真の「地方分権」を進める必要があるのではないだろうか。

皇室典範の性急な改定に反対、久間総務会長に申し入れ

2月2日、日本会議(会長・三好達 元最高裁長官)、日本会議国会議員懇談会(会長・平沼赳夫 元経産大臣)、皇室典範を考える会(代表・渡部昇一 上智大学名誉教授)の有志が合同で、久間章生自民党総務会長に、皇室典範の拙速な改定に反対する決議文を手渡した。

皇室典範の改定に関しては、昨年11月に小泉総理の私的諮問機関「皇室典範の改正に関する有識者会議」(吉川座長・元東大総長)が、「女系容認・長子優先」を柱とする答申を出した。現在の皇室には秋篠宮殿下より年下の男子がおられず、「皇位は男系の男子が継承する」とした現在の皇室典範ではいずれ皇位を継承する皇族がいなくなる恐れがあり、それに対応するというのが目的である。

拙速反対論が沸き上がる

しかし、この答申に対する反対論が至る所で噴出している。とりわけ、「天皇の父を辿れば必ず初代天皇の神武天皇に辿り着く」という皇位継承の本質である「男系継承」を守る努力をせずに、安易に「女系天皇」を容認していることに対して強い批判の声が起こっている。有識者会議の委員のほとんどは皇室問題の門外漢であり、そうした委員がわずか30時間足らずの議論で、あたかも結論ありきで「女系容認」の答申をまとめた。しかも、三笠宮寛仁殿下が「歴史と伝統を平成の御世で、いとも簡単に変更してよいのか」と疑問を投げかけていたが、

吉川座長は「どうということはない」と全く耳を傾けない、かたくなな態度である。

決議文を受け取った久間総務会長は、「皆さんほとんど同じ気持ちだ。今回の国会で、一気呵成に変える必要はない。」と、今国会での法案の可決に慎重な姿勢を示した。

流れを変える紀子さまのご懐妊

皇位継承が問題になるのは、皇太子殿下の次に秋篠宮殿下が即位された後の問題である。今国会で成立させなければならぬ切迫した理由はどこにもない。しかも2月7日、秋篠宮妃紀子さまがご懐妊というビックニュースが飛び込んできた。もし、男のお子様がお生まれになったなら、皇位継承第三位という立場になられる。秋に出産される予定であるので、皇室典範問題は、しばらく時間を置くのが常識と思われる。皇室の問題は国柄に関わる重要事だけに、どのような結論を得るにせよ、慎重に取り扱い、国論の分裂だけは絶対に避けなければならない。



久間総務会長に反対の意向を伝える国会議員(左端が二ノ湯議員)

参議院総務委員会 愛媛県に行政視察



大瀬郵便局で(右から2人目が二ノ湯議員)

参議院総務委員会は、1月16・17日、愛媛県に行政視察を実施した。今回の視察の目的は、市町村合併、町づくり、特定郵便局の運営、IT社会実現の現状などをつぶさに見ることであった。

両日とも朝早くから、夕方まで非常に忙しいスケジュールで休憩時間をほとんど取れない状態であった。松山空港到着後、先ず愛媛県庁を訪れ、県知事や松山市長から市町村合併の状況、財政状況、「坂の上の雲」を軸とした町づくりの説明を受けた。

次に喜多郡内子町に足を運び、地方公共団体系事務を受託している特定局の大瀬郵便局を視察、西予市では明治15年建築という開明学校、江戸中期から昭和初期の商家が建ち並ぶ卯之町の町並みを見学、松山市では、南海放送本社を訪ね、デジタル放送開始に向けた取り組みについて、会社幹部から苦労話を聞いた。宇和島市では、地域インターネット基盤施設整備事業の現状について市長及び担当者から話を聞いたが、地方においても着実に情報化社会が進行していることがわかった。

厳しい過疎地の特定局運営

今回の視察先で注目をしていたのが、特定郵便局による自治体のサービス代行業務であった。大瀬郵便局では、県内で初めて証明書交付事務を平成15年4月1日から開始しているが、住民の利用は一日に一件程度で、一年間で300件未満となっている。高齢化が進んでいる地方では、頻繁に証明書などを必要とする人がいないのかもしれない

外国人材交流推進議員連盟の設立

二ノ湯議員、幹事に就任

我が国は、他の先進国でも類を見ない程急激に、少子高齢化が進んでいる。このまま推移すれば、労働人口が減少する。高齢者や女性を現在以上に労働力として活用しても、今の経済水準を維持しようとするれば、将来的には外国人労働者を受け入れざるを得ない状況にある。特に、日本人が嫌悪する介護や福祉の分野により多くの外国人労働力が求められることになる。現に、

昨年の11月、フィリピンとの間のFTA交渉によって、日本政府は、フィリピンの看護師・介護福祉士を、日本の国家資格を取得することを条件に受け入れることを決定した。経済界からも、優秀な外国人労働者を国家が厳しく管理をして受け入れる体制を早急に整備すべきだとの声が出ている。

その一方で、外国人の不法入国・不法就労の問題が後を絶たない。しかも、不法入国者・不法就労者による犯罪が多発しており、社会問題化している。外国人の入国・就労に関しては、法務省の入国管理局と厚

い。一通162円の手数料が郵便局に入るが、経費との関係で、サービスをいかに維持していくかが大きな課題である。昨年の郵政民営化論議の中で、郵便局の業務拡大について意見が交わされたが、郵便局が郵便・貯金・保険以外の業務の範囲を広げて、収益を上げるのも、口で言う程易しくはない。

生労働省が縦割りで管理しており、正確な就労実態すら把握できていないのが現状だ。我が国は、今まさに外国人労働力の受け入れ政策を見直さなければならぬ時期に差し掛かっている。

このような現状を受けて、去る12月13日に、「外国人材交流推進議員連盟(会長・玉澤徳一郎衆議院議員・元農水大臣)」が設立された。設立の旗振り役であり、議連の事務局長を務める二ノ湯議員と同期の中村博彦参議院議員の強い要望もあり、二ノ湯議員は幹事を務めることになった。郵政法案に関する処分の影響で、二ノ湯議員は党や国会での役職には就いていないが、議員連盟では、これで3つ目の役職ということになる。

今後の日本の社会に大きな変革をもたらす大きな問題だけに、議員連盟でしっかりとした議論を交わし、よりよい方針を打ち出す必要がある。二ノ湯議員の活躍が大いに期待される。

地方議会制度の 見直しが実現

期待される監視機能の強化

地方自治は理事者(執行部)と議会が車の両輪となって推進される。最近の地方分権によって地方自治体に権限が委譲されて、知事や市町村長の力が強くなって来ているが、地方自治体の行政を監視する議会の権限はなかなか強くないのが実情である。議会側の全国組織である都道府県議長会、市議会議長会、町村議長会がかねてより地方議会の運営の自由度を高め、活性化をはかるために、地方議会の運営を細かく規制している地方自治法を改正してほしいと要望活動を繰り返していた。二ノ湯議員も市議会議長会会長としてこの運動に深くかかわってきた。議会側の権限強化は、地方議会の活性化のために、ぜひとも前進させなければならないが、反面理事者側にとっては、議会が今以上に強くなることは抵抗がある。しかし、議会制度の見直しは、時の流れであり、昨年12月9日の地方制度調査会(内閣総理大臣の諮問機関)で次の項目が答申され、通常国会に地方自治法の改正案が提出される予定である。新たに議会制度の見直しが実施されるのは、①議員が複数の常任委員会に所属できる②議員が複数の審査に必要な参考人を呼ぶことができる③議長は、臨時議会を招集することができるなどである。この改正によって、地方議会は、自由な運営が可能となり、活性化するものと思われる。

第155回
みんなで歩こう湯歩会(参加者61名)



東福寺仏殿本堂前にて

第156回
みんなで歩こう湯歩会

- ・日時：2月26日(日) 小雨決行
- ・出発時刻：午前8時30分(時間厳守)
- ・集合場所：阪急大山崎駅
- ・コース：大山崎駅→山崎聖天→大山崎ic→小畑川沿い→勝竜寺→勝竜寺城公園→ガラシャ通り→神足神社→JR長岡京駅→阪急長岡天神駅解散
- ・今回は、久し振りに乙訓南部を歩きます。霊験あらたかな山崎聖天さんをはじめ、名神高速の近代的なインターチェンジを眺め、長岡京が誇る勝竜寺公園と歴史文化と自然が調和した街並みを歩きます。是非皆様のご参加をお待ちいたしております。
- ・代表世話人 北村好司郎 ☎075-313-8758 (当日)090-1140-4964

歩くことは
健康の基本

けいじ
山田啓二知事を励ます
活力京都総決起大会

若さと行動力
現地・現場主義



山田啓二
けいじ

改革からビジョンと経営へ

とき 3月5日(日) 午後3時 開会
ところ 国立京都国際会館(左京区宝ヶ池)

身辺雑記

一、小泉改革で「勝ち組」「負け組」が出来たと批判されている。一生懸命努力して勝ち組になった人の努力は評価しなければならぬ。問題は努力もせずに、額に汗せず浮利を求める風潮が広がっていることである。

一、堀江氏が逮捕される前、七九四円だったライブドアの株価は、一〇〇円割れとなってしまった。一攫千金を夢みてヘソクリでライブドア株を買った多くの主婦は、大きな損失をこうむり今頃後悔し、悲しみに沈んでいることだろう。いや、それどころか家庭騒動があちこちで起こっているかもしれない。

一、人間は、大金持ちになると自家用ジェット機を持ちたがるのか。耐震強度偽装問題で世間を騒がせているヒューザーの小嶋社長、そしてホリエモンことライブドアの堀江社長も五十六億円もするジェット機を発注していたと報道されていた。そんなゼイタクができるのも税金のかららないあぶく銭が入ってくるからか。

一、耐震強度偽装問題、法令違反を繰り返している東横イン、防衛施設庁の官製談合と毎日話題に事欠かない。法を破り、条例を無視して人間は利益を追求する。しかし、悪事がバレれば結局は元も子もなくなり、儲けた金を全て吐き出すことになってしまう。悪銭身に付かず、人間正道を歩んだ方が、最後は笑うことになる。

一、日朝協議は何の進展も見せずに終わった。国民が熱望していた拉致被害者の消息、帰国などの交渉もまるで取りつく島がない態度だったようだ。煮ても焼いても食えない人間とは北朝鮮当局者のような人を指すのだろうか。

一、我々の職業は、不規則な生活、美食が常につきまとう。従って、生活習慣病になりやすい。幸いに今回も市民病院での健診の結果、糖尿病にかかっていなかった。毎日40分〜50分の散歩を励行している効果かもしれない。

「新政経懇話会」入会のお願い

「新政経懇話会」では、機関紙「えとす」の発行をはじめ、二ノ湯さとしの政治活動をご支援いただける会員を募集しております。是非、二ノ湯さとしの政治理念と主張にご賛同いただき、ご入会下さいますようお願い申し上げます。

新政経懇話会 年会費 1万円

入会申込・お問い合わせ先
二ノ湯さとし事務所
☎075-315-2228

「えとす」購読のお願い

月刊誌「えとす」は毎月一回の発行です。毎月ご希望の方は、郵便口座振替にて、ぜひお申し込み下さい

年間購読料 1200円

郵便振替口座 01000-4-62360
口座名：みんなで政治を考える会

— お問い合わせ先 —
二ノ湯さとし事務所
電話 075-315-2228

ホームページを開設いたしました
<http://www.ninoyusatoshi.com>